

といれポリシーション

【アブストラクト】

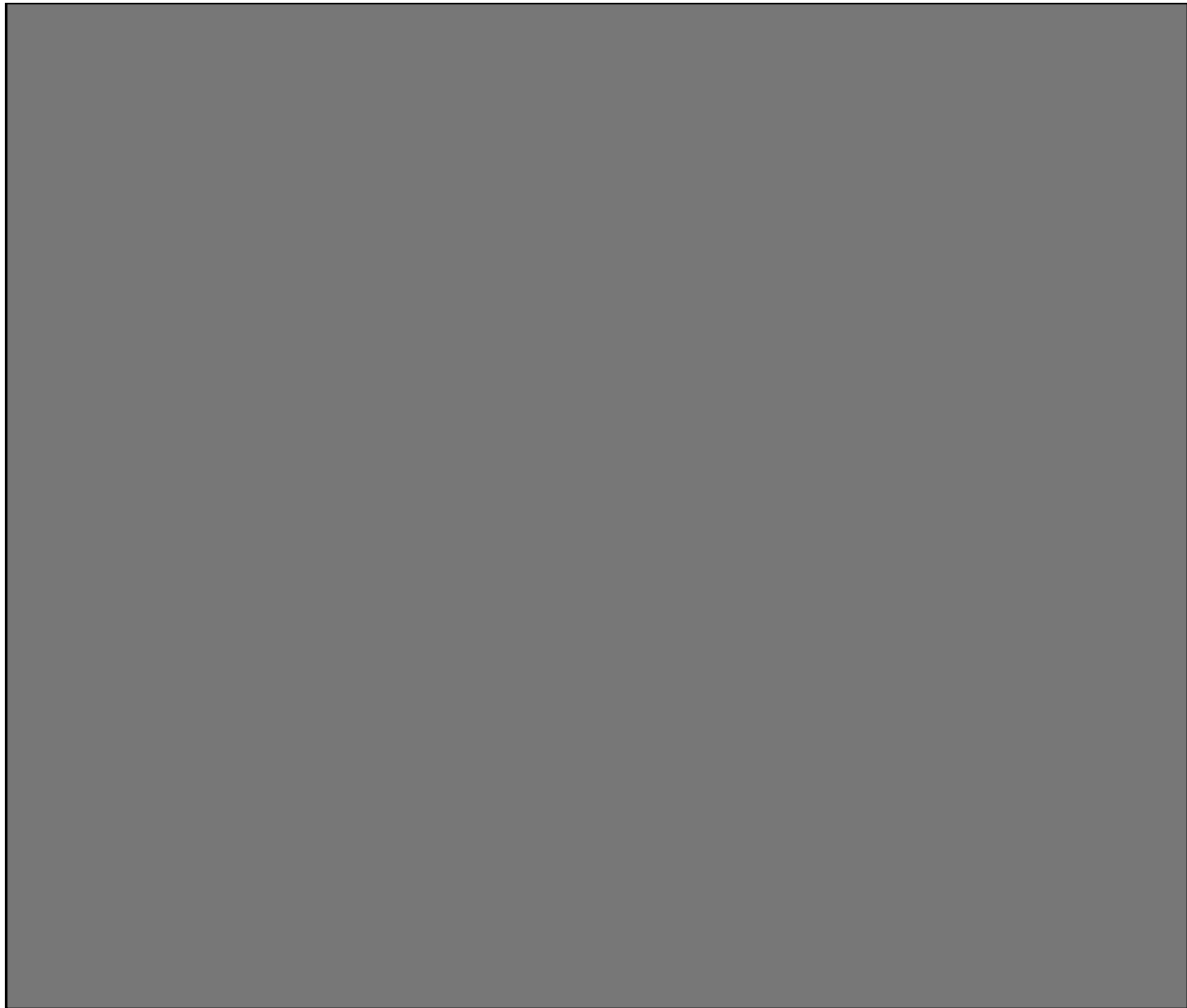
本研究は、といれポリシーションと題してオールジェンダートイレのはどのような配慮が必要なのか、どうすれば利用者全員が不安を抱かずに利用できるトイレになるのかを考えたものである。LGBTQ+とは何なのか、オールジェンダートイレはどれくらい広まっているのか。そういった初歩的なことから始まった。世間的にはあまり受け入れられていないオールジェンダートイレであるが、調べていくうちに性的マイノリティの方々の立場を考えたり、インクルーシブ社会について考えたりすることにつながる良いテーマであると知った。オールジェンダートイレの問題点としてはやはり犯罪の心配があることや、今までのトイレの概念を大きく覆してしまうことである。その問題をいかに改善できるかが本研究のポイントである。

キーワード: LGBTQ+, オールジェンダートイレ, マイノリティ, インクルーシブ社会

【本文】

1. はじめに

探究テーマの話し合いの段階で、マイノリティという立場に苦しむ人々を少しでも減らすことにつながるような社会貢献ができる探究がしたいという考えを持った。私自身は左利きで、右利き社会の中で生きていくのが大変だと思うことが多々ある。些細なことでもマイノリティになるだけでストレスにつながってしまうことを実感している。そこで班員と話し合い、今ホットな話題でSDGsにも掲げられているジェンダー問題について探究することにした。非常にデリケートで同性婚の認可や教育のことなどの触れにくい問題が多い中で高校生の私たちでも考えやすいものはないかとLGBTQ+について調べていく中でオールジェンダートイレという存在を知り、オールジェンダートイレについての探究を進めるに至った。



スクラップ 産経新聞 令和4年5月15日日曜日

2.探究方法



3.探究活動内容

性的マイノリティだけでなく全員が心地よく利用できるオールジェンダートイレを目指して探究活動を行った。まずは自分たちがLGBTQ+を知るために、会に参加したり先輩方と交流したりして、デリケートな問題へのアプローチの仕方を探った。次にオールジェンダートイレについて知るためにインターネットで設置されているところを調べたり修学旅行で実際に訪問したりした。調べていく中で、新しくオールジェンダートイレを設置することなど現在の生活様式を急激に変化させることの難しさを知り、身体の性別で分けられた既存のトイレをオールジェンダートイレに近づけるという方向性にシフトして探究を進め、最終的には模型を作り探究の日に提案することを目標に活動した。

○アンケート

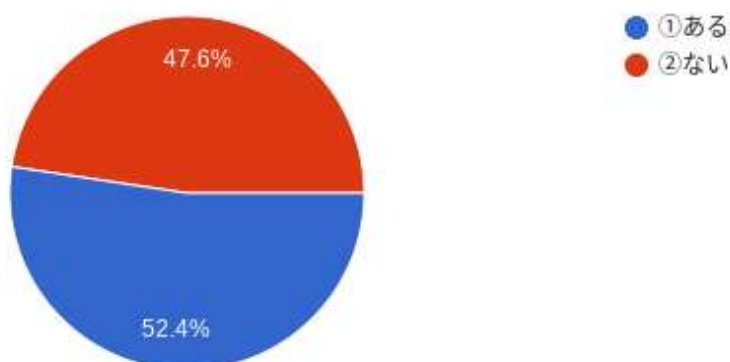
21件の回答しか得られなかったものの、三高生のオールジェンダートイレに対する知識や考え方は様々であった。オールジェンダートイレをしていると回答した生徒は約半数であったが、オールジェンダートイレ利用に対する抵抗が大きく、理由としては犯罪のリスクや現在のトイレとのギャップの大きさが関係していそうということが分かった。対して、家のトイレでは男女関係なく使っているためオールジェンダートイレに抵抗はないという声もあった。アンケートを通して性的マイノリティだけの声、一般利用者だけの声のどちらかに偏らないように探究を進める必要があると分かった。

1. オールジェンダートイレについて

1 オールジェンダートイレとは性差関係なく使えるトイレのことです。

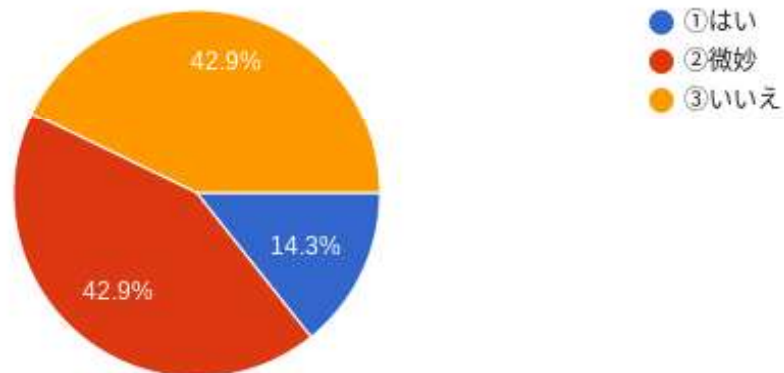
では、オールジェンダートイレという言葉聞いたことがありますか？

21件の回答



2. オールジェンダートイレを使いたいと思いますか？

21 件の回答



3. 2でなぜそう答えましたか？

19 件の回答

男性がいるところで排泄行うのは少し恥ずかしいから。また悪用する男性がいるかも知れないから。

異なる性別の人が使っているとあまり安心して使うことができないから

自分自身には必要がないから。
設置自体は必要だと思う。

オールジェンダーをいいことに悪用してる人がいるから

どんなものかイメージがつかないから。

オールジェンダートイレしか空いてない時は使うと思うけれど、男子用トイレが空いている場合は男子用を使おうと思うから。

入る理由がないから

今まで区切られてきたものが無くなることで盗撮や誘拐など様々な犯罪の発生が考えられるから。

トイレは個室なので許容範囲だと思うから。

性別を偽って入って来る人がいるかも知れないから。

トイレにことなる性別の人がいるのは少し抵抗があるから

積極的に使いたいとは思わないけどそれしかないなら別に使ってもいいかなと思います。

意識的にトイレは性別で分けられてるものだと考えてしまうから。

混合トイレは違和感があり、落ち着かないから。ただこの考えも偏見に助長することも自覚できている。

髪型とかを整えるんなら女性専用の方がいいかなと思ったから。

女性が出てくるのを待ち伏せする男性がいるとのニュースを聞いて、怖いと感じたから。

家庭などにおいて基本的には性別関係なく使っているため、

自分の性別のトイレが有るならそれを使うが、全トイレがOGトイレになるなら普通に使うと思うから。

普通のトイレでいいから

(↑2023年探究51班 アンケート結果)

○にじのひろば・にじいろCANVAS

仙台市が運営しているにじのひろばに参加した。会話の内容等は口外しないルールになっているため、参加者にとっては自分を偽りなく表現できる環境になっていた。。実際に性的マイノリティの方々と交流する場を得られたことで、悩みや不安、周りに打ち明けるとの抵抗など生の声を聞くことができた。本やインターネットで調べるよりもLGBTQ+への理解が深まったように感じた。目に見えている容姿だけがその人の性別を表しているわけではないことを学んだ。

にじいろCANVASシンポジウムはリモートで参加した。性に対する考え方や、社会のあり方の講演を視聴し、ジェンダー問題が社会全体の問題であることを再認識できた。また、ジェンダー問題が大きく取り上げられてきている一方で日本ではまだまだ浸透せず、受け入れられにくい問題であるということも感じた。

○修学旅行 近畿大学訪問

班別研修ではオールジェンダートイレが設置されたことで話題になった近畿大学東大阪キャンパス中央図書館を訪問した。設置について、はじめは学生など関係者から不安や戸惑いが見られたが、防犯面やデザイン面に工夫を凝らしたことで現在は気にせず使えるといった声が多いと担当の方がおっしゃっていた。実際に見てみると、たしかに明るい雰囲気を使いづらさは感じなかった。おむつ交換台やオストメイト対応などオールジェンダートイレの役割だけでなく、多様な役割を担っていることも反応の良さにつながっている。横にあるふつうの男女別トイレに関しても、マークのデザインに力を入れていた。近畿大学を訪問したことで、オールジェンダートイレのあり方を学べたことに加え、男女別トイレでもオールジェンダートイレに寄せられるポイントを見つけることができた。



写真 近畿大学中央図書館オールジェンダートイレ

○マイプロジェクトアワード 宮城県Summit

マイプロジェクトアワードは班として初めての外部発表の場であった。他校の探究活動の内容を聞いたり、自分たちの発表をして質問やアドバイスをもらったりした。ファシリテーターの方々や他チームの高校生たちの雰囲気がとても良く、正解かわからない自分たちの探究を肯定してくれて自信につながった。探究の日やイノベーションフェスタ以外の場で自分たちの探究について振り返る機会はなかなかなかったため、次の目標を定める良い機会となった。

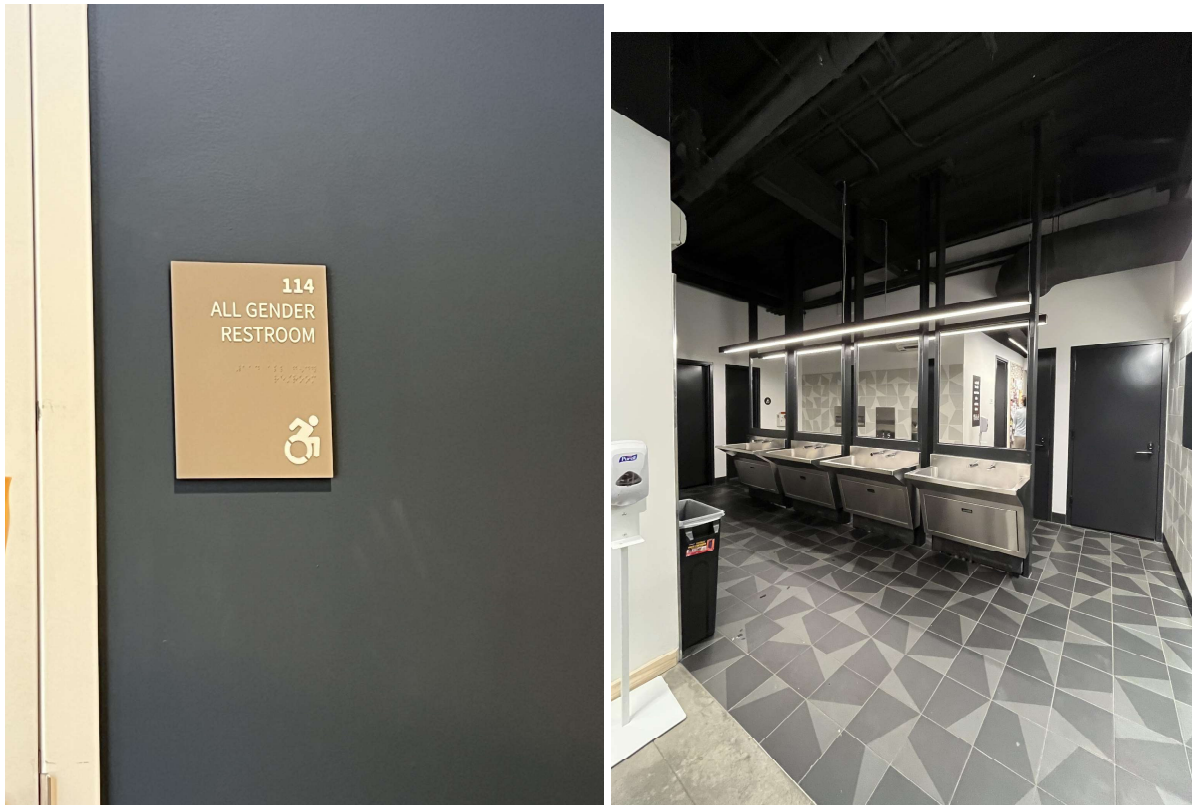
発表資料

□ といれボリュームン(宮城県仙台第三高等学校)

○ポストン研修

今年の3月に私が参加したポストン研修では、オールジェンダートイレを多く見かけた。研修の目的は探究と関わりがないものではあったが、アメリカでは日本よりもジェンダーに対して寛容な考え方が広まっていると実感した。一緒に行った三高の生徒は使用することに若干抵抗を感じているようにも見えたが普通に使用していた。アメリカの人はなおさら当たり前のように使用していた。街にはジェンダー平等の象徴の虹色のフラッグが掲げられているなど社会で問題に向き合っている感じがした。トイレ自体は特に変わったところはなかったが、同じ空間に男性トイレ、女性トイレが設置されていたり、近畿大学のように開けていたり様々なスタイルがあった。





○模型作成

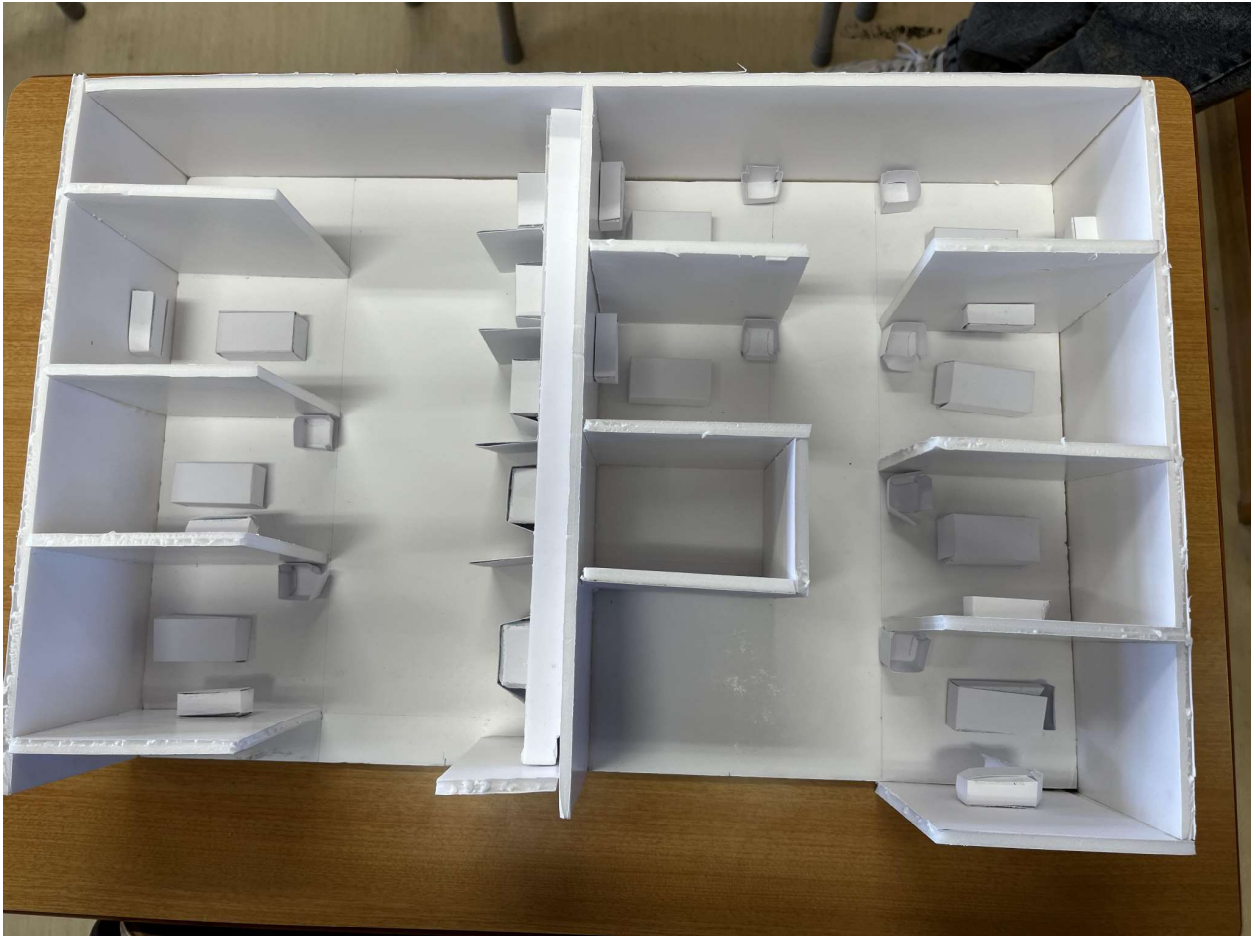
三高のトイレをモデルに既存のトイレをどのようにしてオールジェンダートイレに近づけられるのかをテーマに作成をした。

〈目標〉

- ・お金がかからない
- ・大きな工事を要さない
- ・男女でトイレの作りの差をなくす

〈工夫〉

- ・全個室にゴミ箱設置
- ・男子小便器の間に仕切りを設置
- ・トイレの色を統一
- ・マークの改善



4.考察

班としては新しくオールジェンダートイレを作るのではなく、従来のトイレをオールジェンダートイレ化していくことで抵抗感なく快適に利用できるトイレになるという結論に至った。まだ完全にジェンダーレスの考えが浸透していない日本で全面的にオールジェンダートイレにすることは安全面などの不安を煽ることになりかねないため、性的マイノリティに歩み寄る一歩目としては効果的なのではないかと考えた。

私個人としては、オールジェンダートイレという言葉に囚われすぎるあまり壁の色の統一やマークの改善を行うことでユニバーサルデザインの観点が失われてしまうことは良くないと考えている。文字が読めない子供から、お年寄りまですべての人がパッと見て判断できることはオールジェンダートイレであっても必要なことであり、それが失われてしまえばすべての利用者が快適に使えるトイレからは離れてしまうと考える。本研究ではそこまでのことを考えられなかったが、もっと深掘りできる探究であり終わりのない探究だと考える。

5.おわりに

探究が始まったときはあれもこれもとやりたいことを抱えていたが、調べていくうちにやろうとしていることの難しさやデリケートさを知り、停滞することを余儀なくされたこともあった。

しかしイノベーションフェスタなどの校内での発表の機会や先輩方との協力によって少しずつ自分たちがやりたいことの方向性を見つけることができた。最終的には、オールジェンダートイレという存在に価値を見出し、それをどうしたらより良く、みんなに受け入れられるトイレにできるのかという疑問の一つの答えにたどり着くことができた。正直もう少し詰められるところもあったのではないかと思うが、難しい問

題を自分たちなりに身近なトイレを媒介として考えるきっかけを作れたことはとても良かったことだと考えている。

最後に、ここまでの探究に協力して下さった全ての方に感謝申し上げます。

参考文献

58回生F2班 オールジェンダートイレの新常識 ～「しかく」トイレ～

著:パレットーク 発行年:2021年4月26日 著書:マンガでわかる LGBTQ+

出版社:株式会社講談社



男女共用のジェンダートイレは日本でも増えるのか 阿部花恵 2021.02.10

<https://chanto.jp.net/articles/-/225144?display=b>

近大が図書館リニューアル 学校初のオールジェンダートイレ設置 サンケイスポーツ 2022.02.23

<https://www.sanspo.com/article/20220223-T7ENXXGNFFL6FJQSCBRCZRO4FM/>

【企業/学校/病院関係者向け】トイレの増設費用は？メリットや工事する際の注意点を解説 クラシアン

2022.06.22 https://qracian.biz/water_navi/toilet-expansion/

性の多様性について 仙台市 2024.06.01

<https://www.city.sendai.jp/danjo-kikaku/kurashi/manabu/danjo/torikumi/tayounaseinoarikata.html>

近畿大学中央図書館のトイレ改修。 TOTO 2024.02.16

<https://jp.toto.com/ud/style/plus/story20.htm>

資料

発表ポスター

□ 普51班 といれボリューション